



たばこ火災

留守宅での出火事例あり。喫煙後、出かける前は要注意

CASE 1 吸い殻入れから出火

■ 家人がいつもの場所にたばこの吸い殻を捨ててそのまま出勤。でも実は消したつもり吸い殻が溜まった吸い殻入れの中でゆっくり燃え続け、ある時突然炎を上げて燃え始め、住宅の壁・天井に燃え移ってしまいました。



CASE 2 たばこの不始末により草木に延焼



■ ハイキングに来ていた男性が休憩場所で喫煙。靴の先でたばこをもみ消した際の火種が落ち葉に着火。知らずにその場を離れたため、周囲に延焼。男性は火を消そうとしましたが、手に火傷を負い救急搬送されました。

吸い殻は携帯灰皿に入れること！

CASE 3 吸い殻の投げ捨てによる火災

■ 投げ捨て火災の現場には、火災に至らなかった別の吸い殻が多数見つかっています。「確実に消す」、「燃えやすいものの近くに捨てない」ことはもちろんですが、吸い殻は「**火災原因となるゴミ**」です。当たり前ですが、ちゃんと捨てましょう。



小さい火種をあなたどらない！
たばこのポイ捨ては言語道断！